



第23回秋田県歯科保健大会

並びに

歯科保健医療フォーラム

～ウエル咬ム秋田～



1. 開催目的

県では、全ての県民が健康上の問題で日常生活を制限されることなく、生きがいや豊かさを感じ暮らせる健康長寿社会の実現のため、健康寿命延伸に向けた取り組みを効果的に推進するための基本方針として「第3期健康秋田21計画」を策定し、栄養・食生活、身体活動・運動、たばこ、休養、アルコールなどの生活習慣の改善と、フレイル予防やこころの健康などの心身両面の健康づくりを推進する取組を行っている。

本大会では、「栄養・食生活」「オーラルフレイル予防」についての学びを通じて、県民の歯科保健意識の更なる醸成を図るとともに、全県的な歯と口腔の健康づくりを推進し、県民の生涯にわたる健康と幸福に寄与することを目的とする。

2. 開催日時 令和6年12月21日（土） 13:00～16:30

3. 開催場所 秋田キャッスルホテル 4階 「矢留の間」
(〒010-0001 秋田市中通1丁目3番5号 TEL: 018-834-1141)

4. 対象者 歯科医療関係者、行政関係者、幼稚園・保育所・小中高校の保健関係者、各種団体における関係者、歯科医療専門学校学生、一般県民 等

5. 参加料 無料

6. 主催 秋田県、秋田県教育委員会、秋田県歯科医師会

7. 共催 秋田県農業協同組合中央会、秋田県食生活改善推進協議会、秋田県栄養士会、秋田県ごはん食推進会議、秋田県歯科技工士会、秋田県歯科衛生士会、秋田県歯科医療専門学校

8. 後援 日本歯科医師会、8020推進財団、日本学校歯科医会、秋田市、秋田市教育委員会、秋田県医師会、秋田県薬剤師会、秋田県看護協会、秋田県社会福祉協議会、秋田県言語聴覚士会、秋田県理学療法士会、秋田県小児保健会、秋田県養護教諭研究会、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田、秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、毎日新聞秋田支局、読売新聞秋田支局、河北新報社 [順不同]

9. 内 容

〔第23回秋田県歯科保健大会〕 ＊受付開始 12:30

(1) 開 会 (13:00)

挨 拶

秋田県知事	佐 竹 敬 久
秋田県教育委員会教育長	安 田 浩 幸
秋田県歯科医師会会長	藤 原 元 幸

(2) 県民よい歯の表彰等 (13:20)

- ① 令和6年度 秋田県学校歯科保健優良校表彰
- ② 令和6年度 秋田県歯科保健優良幼稚園・保育所(園)・認定こども園表彰
- ③ 令和6年度 8020 いい歯の表彰認定証表彰
- ④ 令和6年度 臼井記念歯科保健功労賞表彰

〔歯科保健医療フォーラム〕

テーマ：「健康長寿実現に向けて～食・栄養・オーラルフレイルを考える～」

(3) 特別講演 (13:50～)

演 題： 『 県民健康・栄養調査（令和4年）から考える秋田県民の健康課題 』

講 師： 秋田大学大学院医学系研究科

医学専攻 社会環境医学系 教授 野村 恭子 先生

演 題： 『 健康長寿を支える視点：オーラルフレイルをご存じですか？ 』

講 師： 地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センター

歯科口腔外科部長 平野 浩彦 先生

(4) ディスカッション (16:00～16:30)

(5) 閉 会 (16:30)



県民健康・栄養調査(令和4年)から考える秋田県民の健康課題



秋田大学大学院 医学系研究科
医学専攻 社会環境医学系

教授 野村 恭子

【目的】

令和4年に実施された県民栄養調査から秋田県民の健康課題を明らかにする。

【対象と方法】

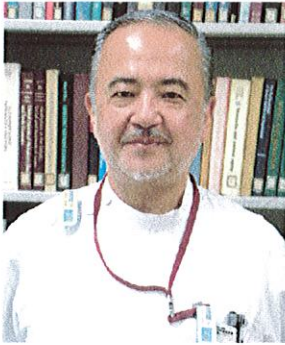
2021年10月から12月にかけて、秋田県内の9地域474世帯1,212名の住民を対象に、県民健康・栄養調査(令和4年)が実施された。有効回答は211世帯が、栄養摂取状況調査505名(参加率41.7%)、身体状況調査269人、歩数調査378人、尿中ナトリウム比401人、みそ汁塩分濃度174世帯が参加した。

【結果】

対象者の状況として、県北、県南に比べ県央の特に秋田市からの参加率が極めて低かった。性別は男性は238人、女性が277人でやや女性が多かった。20歳以上の対象者では、男性の肥満の割合が全体で32%であった。収縮期血圧140以上、拡張期血圧90以上の高血圧に該当したのは、40代で男性約50%、女性約28%、50代で男性約89%、女性42%、60代で男性68%、女性51%であった。これまでに糖尿病と言われたことのある割合は、男性19%、女性16%であった。運動習慣のないものは全体で49%であった。20歳以上の1人1日あたりの平均歩数は4,652歩であった。20歳以上の食塩摂取量の平均値は10.1gで、平成28年と比較し減少していた。しかし、第2期健康秋田21計画の目標値8.0gには達していなかった。

1日8g以上の高塩分摂取群は298名(70%)であった。食塩摂取量が多い人は60歳代以上の高齢者に多く(1日10.43g)、男性であること(男性10.89g vs. 女性9.36g)、学歴が低いこと(小中学生では1日11.1g、高校生では1日10.14g、大学・専門学校では1日9.44g)であった。高血圧の知識については、収縮期と拡張期の両方を知っている人(9.94g/日)は、収縮期と拡張期の両方を知らない人(10.17g/日)あるいは片方しか知らない人(10.23g/日)に比べて食塩摂取量が少なかった。食塩摂取量と血圧に関する知識、健康信念モデル、ヘルス・リテラシー、社会階級、飲酒、肥満度、収縮期および拡張期血圧は、1日8g以上の食塩摂取と有意な関連を示さなかった。

健康長寿を支える視点：オーラルフレイルをご存じですか？



地方独立行政法人
東京都健康長寿医療センター
歯科口腔外科部長 平野 浩彦

「オーラルフレイル」は、直訳すると「口の機能の虚弱」となります。お口に関する“ささいな衰え”を放っておいたり、適切に対処しなかったりすることにより、お口の機能の低下や食べる機能の障害、さらには心身機能の低下にまでつながる“負の連鎖”に陥らないよう警鐘を鳴らす目的で提唱されました。「滑舌の低下」「むせ」などは、オーラルフレイルの症状は“老化のはじまりを示すサイン”として注目されるようになってきました。

健康と要介護の間には、筋力や心身の活力が低下する“フレイル”と呼ばれる中間的な段階があるとされています。フレイルから続く要介護状態に陥ることなく、健やかで自立した暮らしを長く保つためには、この段階で早く気づき、予防や改善に努力することが重要であるということがわかってきました。オーラルフレイルは、こういったフレイルの概念を口に応用して考えられた概念です。当日は、フレイルそしてオーラルフレイルについて参加者の皆様と対策も含め考えてみたいと思います。